

令和元年度地方創生推進交付金事業 なかい戦略みらい会議及び議会の効果検証

主な意見

【なかい戦略みらい会議】

- 交付金事業を実施することで、どれだけの収益があったのかを精査し、費用対効果を考えるべきではないか。
- 数値目標を達成できたからといって、単純によかったと言えるものではないので、よく検証するべきである。
- もっと学生を取り入れるべき。また、その場合、学生には企画の段階から参加してもらい、一緒に事業を達成することが大事。(社会的意義が必要)
- 社会問題は複合化しており、縦割り行政では解決できないので、NPO法人や民間企業をうまく取り入れていった方がよい。
- 町や取組を紹介する際には、物語性が重要。人物にスポットを当てて、語り部をつくることも効果的である。
- 新型コロナウイルスの感染が拡大する中でも、中井町の事業所は支障なく稼働している。災害等に強く、都心からのアクセスも悪くないことから、ビジネスの拠点として、売っていけるのではないか。
- ホームページやSNSの更新頻度を上げてほしい。また、民間企業や町民を活用した情報発信についても進めてほしい。
- 中井町には鉄道駅がないので、拠点をづくり、そこに集中的にコミュニティをつくって、それらの拠点をネットワークするべきである。(中井中央公園のコミュニティをいかす、過疎している集落を補強する、グリーンテクなかいをいかす)
- これまでの取組により、色々なものが芽吹いてきたが、ここで緩めると元に戻ってしまうので、力を入れて取り組んでほしい。

【議会】

- KPIの設定に当たっては、より事業の効果を測定するのに適した指標を設定していただきたい。